

教 育 研 究 業 績

2019年 5 月 1 日

氏名 江間 由紀夫

学位:臨床福祉学修士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
社会学	社会福祉学、ソーシャルワーク 精神保健福祉に関する相談援助業務の実務、地域生活支援	
主要担当授業科目 (2019年度)	相談援助演習Ⅲ、精神保健福祉援助技術各論 精神保健福祉援助演習Ⅰ、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助実習	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
①東北文化学園大学医療福祉学部 合同実習報告会の企画運営	平成20年2月 平成21年2月	専門職連携教育（IPE）の一環として学科・専攻を超えた医療福祉系の実習報告会の企画、運営に携わった。 学部の実習教育計画室委員として、教員と学生による運営委員会に参加し、社会福祉士実習、精神保健福祉士実習の報告者の指導ならびに報告会の運営、報告集の編集を行った。
②東北文化学園大学キャリアアップ セミナー講師	平成22年2月	東北文化学園大学保健福祉学部保健福祉学科卒業生を対象とした卒業教育プログラムとしてソーシャルワークにおける個別援助技術の変遷についての講義を行った。
③仙台白百合女子大学キャリアアップ 支援研修講師	平成22年2月	仙台白百合女子大学より委託を受けて、卒業教育プログラムとして精神障害者の生活支援とケアマネジメントに関する講義を行った。
④日本放送協会（NHK）学園高等学校 専攻科 スクーリング講師	平成20年 7月4日 平成21年 7月4日	「社会福祉援助技術」介護福祉士養成のための通信過程において、ソーシャルワークの定義、倫理綱領、援助理論の歴史、支援の実際等について総合的な講義を行った。（2年間担当）
⑤東北文化学園大学 IPE セミナー	平成23年2月 28日	東北文化学園大学で開催されたセミナーにおいて保健福祉医療の専門職連携についての講義を担当した。
⑥東京成徳大学 FD 報告	平成24年2月 16日	東京成徳大学のFD活動として、日本私立大学協会大学教務部課長相当者研修会の報告を行った。特にDP, CP, APを反映させたシラバスの作成とカリキュラムマップの作成について報告した。
⑦東京成徳大学 FD 報告	平成25年2月7 日	東京成徳大学のFD活動の一環として、授業改善の取り組みについて発表した。精神保健福祉士国家資格取得のための授業としての課題、講義における工夫と改善点などについて報告した。
⑧平成24年度精神保健福祉士実習・ 演習担当教員講習会 演習領域講師	平成25年3月 4日、3月15 日	精神保健福祉士養成カリキュラムにおける演習担当教員の資格として厚生労働省が規定した講習（日本精神保健福祉士養成校協会が受託）の講師として、大学・専門学校等の教員に対して、演習のシラバス作成と評価方法についての講義を行った。
⑨日本精神保健福祉士養成校協会全 国研修会 シンポジウム	平成25年6月 29日、30日	精神保健福祉士を養成する教員向け研修会におけるシンポジウム「精神保健福祉士養成教育の本質を問う」のコーディネーターを担当。養成教育の課題と今後のあり方をまとめた。
⑩第6回保健医療福祉連携教育学会	平成25年10月	保健、医療、福祉に携わる多職種の連携に関しての実践報告な

<p>学術集会 一般口演座長</p> <p>⑪日本精神保健福祉士養成校協会東北ブロック研修会講師</p> <p>⑫平成 25 年度精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会 演習領域講師</p> <p>⑬平成 26 年度東京成徳大学FD 研究集会発表</p> <p>⑭平成 27 年度東京成徳大学FD 研究集会発表</p> <p>⑮平成 28 年度東京成徳大学FD 研究集会発表</p> <p>⑯平成 28 年度精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会 演習領域講師</p> <p>⑰平成 29 年度日本ソーシャルワーク教育全国研修大会 シンポジスト</p> <p>⑱平成 29 年度東京成徳大学FD・SD 研究集会発表</p> <p>⑲平成 30 年度東京成徳大学FD・SD 研究集会発表</p>	<p>26 日、27 日</p> <p>平成 26 年 3 月 8 日</p> <p>平成 26 年 2 月 27 日、3 月 21 日</p> <p>平成 27 年 1 月 23 日</p> <p>平成 27 年 4 月 16 日</p> <p>平成 28 年 4 月 21 日</p> <p>平成 28 年 7 月 21 日、平成 28 年 8 月 12 日、9 月 9 日</p> <p>平成 29 年 6 月 24 日</p> <p>平成 29 年 7 月 26 日</p> <p>平成 30 年 6 月 27 日</p> <p>平成 30 年 8 月 1 日</p> <p>平成 30 年 11 月 28 日</p>	<p>らびに研究報告を行う分科会での座長を担当した。</p> <p>「谷中輝雄先生と精神保健福祉士養成教育」と題し、東北地域の精神保健福祉士養成を行う大学教員等を対象に日本の精神保健福祉士養成に重要な役割を果たした故谷中輝雄先生の業績について講演を行った。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラムにおける演習担当教員の資格として厚生労働省が規定した講習（日本精神保健福祉士養成校協会が受託）の講師として、大学・専門学校等の教員に対して、演習のシラバス作成と評価方法についての講義を行った。</p> <p>「ルーブリックの活用について」東京成徳大学のFD 活動の一環として、成績評価ならびに学生指導に有効なルーブリックの活用について発表と演習を行った。</p> <p>「第 20 回 FD フォーラムの報告」外部 FD として参加した京都 FD フォーラムの内容について報告を行った。</p> <p>「障害者差別解消法について」平成 28 年 4 月 1 日より施行された障害者差別解消法の解説と大学としての取り組みの必要性について発表した。</p> <p>平成 27 年度後期授業アンケートの結果分析について、学科の各学年の傾向と対応について発表した。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラムにおける演習担当教員の資格として厚生労働省が規定した講習（日本精神保健福祉士養成校協会が受託）の講師として、大学・専門学校等の教員に対して、演習のシラバス作成と評価方法についての講義を行った。</p> <p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の研修大会において、アクティブラーニングの実践についてシンポジストとして発表を行った。</p> <p>福祉心理学科の 2008 年入学生から 10 年間での退学傾向と課題について分析し、学部学科レベルを超えた大学としての支援体制の必要性について発表した。</p> <p>「平成 29 年度授業アンケート分析」平成 29 年度の福祉心理学科の結果を平成 27 年度と比較して教員及び学生の動向を発表。</p> <p>「大学における SD 活動について」大学設置基準の改正による SD 活動の必要性について報告を行った。</p> <p>「カリキュラムツリーを作成して」福祉心理学科のカリキュラムツリーの差癖からツリーそのものの意義とカリキュラム全体を通した課題について発表した。</p>
<p>2 作成した教科書・教材</p> <p>①精神保健福祉実践ハンドブック：ソーシャルワーク過程の場面展開に見る“精神保健福祉士”の実践活動と理論（共著）日総研</p> <p>②精神保健福祉士養成講座⑤ 精神保健福祉援助技術総論（共著）中央法規出版</p> <p>③改訂精神保健福祉士養成講座⑤ 精神保健福祉援助技術総論（共著）中央法規出版</p> <p>④新・精神保健福祉士養成講座 7</p>	<p>平成 14 年 2 月</p> <p>平成 15 年 2 月</p> <p>平成 19 年 1 月</p> <p>平成 21 年 2 月</p>	<p>精神保健福祉士が業務を行う際に必要な理論および援助技術をソーシャルワーク過程の点から解説した書。エバリュエーション（評価）の部分を担当。</p> <p>精神保健福祉士養成のための教科書。ソーシャルワーク理論と精神保健福祉援助技術として、1960 年代以降の理論の流れと実践技術の部分を担当。</p> <p>平成 15 年発行のテキスト改訂版。現代の精神保健福祉援助実践が直面している課題に沿ってソーシャルワーク理論とその導入について解説した。</p> <p>精神保健福祉士養成テキストの改訂版。別冊の教員用指導ガイ</p>

<p>精神保健福祉援助演習（共著） 中央法規出版</p> <p>⑤新・精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門） （共著） 中央法規出版</p> <p>⑥新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習（共著） 中央法規出版</p> <p>⑦第2版 新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習（共著） 中央法規出版</p> <p>⑧第2版 新・精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門） （共著） 中央法規出版</p> <p>⑨第6版 精神保健福祉士養成セミナー4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開I（共著） へるす出版</p> <p>⑩イラストで見る社会福祉用語事典（第2版）（共著）テコム</p>	<p>平成24年2月</p> <p>平成24年2月</p> <p>平成26年12月</p> <p>平成28年2月</p> <p>平成29年1月</p> <p>平成29年6月</p>	<p>ドも執筆。低所得問題を抱える精神障害者への支援に関して、事例をあげて演習プログラムを作成。低所得問題の具体的な理解と対処方法、課題について述べた。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラム改訂に基づくテキストの全面改訂版。バーンアウトの防止のための演習プログラム、チームアプローチの事例を使った演習、低所得者支援のための事例を使った演習を作成し、新カリキュラムで求められる援助技術について解説した。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラム改訂に基づくテキストの全面改訂版。編集委員として実習施設の実際に関する章などを編集。実習先と援助方法についての説明、実習機関の機能と役割および精神科病院での実習プログラムの部分を執筆。実習で求められる知識や技術、実習計画の内容などを解説した。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラム改訂に基づくテキストの改訂版。編集委員として実習施設・機関の理解および配属実習のプログラムなど実際的な内容に関する章を編集した。また昨今の精神保健医療福祉の沿革や配属実習の全体像に関する部分の執筆を行った。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラム改訂に基づくテキストの第2版。バーンアウトの解説とその防止のための演習プログラム、チームアプローチの事例を使った演習、および教員用ガイドについて改訂を行った。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラムに基づくテキストの第6版。精神保健福祉の理念と精神障害者の人権の章において障害者福祉の理念と精神障害について執筆を行なった。</p> <p>社会福祉に関する用語事典。ソーシャルワークに関連する複数の項目の執筆を行った。</p>
<p>3 当該教員の教育上の実績に関する大学等の評価</p>	<p>平成19年度 平成20年度</p> <p>平成23年度 平成25年度 平成27年度 平成29年度</p>	<p>東北文化学園大学FD委員会作成の授業評価アンケートを最終講義時に実施。授業内容・方法・成果の項目で学内平均を上回る評価を受けている。</p> <p>東京成徳大学授業評価アンケート（現代社会と福祉・精神保健福祉援助技術各論）において、いずれの年度も多くの項目で学内平均を上回る評価を受けている。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項（現場従事者として） 北海道医療大学看護福祉学部医療福祉学科臨床心理学専攻 講義</p> <p>北海道医療大学看護福祉学部医療福祉学科医療福祉学専攻 講義</p> <p>北海道医療大学大学院看護福祉学研究所看護学専攻 講義</p> <p>北海道医療大学看護福祉学部医療福祉学専攻 講義</p>	<p>平成7年 9月28日</p> <p>平成12年11月 6日</p> <p>平成12年11月 6日</p> <p>平成13年5月</p>	<p>「PSWの活動と精神医療・保健について」 北海道の精神医療、福祉の現状と精神科病院におけるPSW業務の実際を講義した。</p> <p>「精神障害者の社会復帰と社会資源」 精神障害者の社会復帰について、入院から退院、アフターケアまでの流れとPSWの役割について講義した。</p> <p>「精神障害者の地域支援とグループホームについて」 精神障害者の住居支援について制度の内容と実際の支援例を講義した。</p> <p>「精神科の病院におけるPSWの活動」 精神科病院でのPSWの</p>

祉学科臨床心理学専攻医療福祉学専攻 講義	28日	活動内容を実践面に重点を置き講義した。
北海道医療大学看護福祉学部医療福祉学科医療福祉学専攻 演習	平成14年1月18日	「対人援助の基礎」 コミュニケーションの技法をロールプレイやワークシートを用いて体験的に理解する演習を展開した。
長野大学社会福祉学部 精神保健福祉論 講義	平成17年11月30日	「PSWとして働くこと:個人的な経験としてのソーシャルワーク現場」 精神保健福祉士の仕事について体験的な観点から現場の実際について講義した。
長野大学社会福祉学部 精神保健福祉論 講義	平成18年11月17日	「自立支援法と精神保健福祉」 地域生活支援センターでの実際の業務の転換などを例に挙げながら、ソーシャルワーカーが考えるべき課題について講義した。
<実習指導:現場従事者として> 北星学園大学社会福祉学部(1名) 精神保健福祉援助実習 実習指導	平成10年8月3日~8月28日	旭山病院での実習期間中、精神保健福祉士の業務について実際にケース担当を行わせて指導した。
北星学園大学大学院社会福祉学研究所社会福祉学専攻(1名) 福祉臨床実習指導 実習指導	平成11年6月14日~6月25日	旭山病院での実習期間中、実習指導と指導教官との面接を行った。
新潟医療福祉専門学校(1名) 精神保健福祉援助実習 巡回指導	平成13年8月30日・平成13年9月10日	帯広地域生活支援センター、あしりべつ病院の2カ所で実習中の学生(同一学生)に対して各施設での巡回指導を行った。
新潟医療福祉専門学校(1名) 精神保健福祉援助実習 実習指導	平成14年10月23日~11月3日	地域生活支援センターこまくさでの実習期間中、実習プログラム策定および指導を行った。
<現場従事者に対する教育活動> 北海道社会福祉協議会 介護職員専門研修 演習担当	平成10年6月22日	「コミュニケーションのあり方」 介護職員の実務に役立つコミュニケーション技法の基礎的な演習をワークシートやロールプレイを導入して実施。
北海道社会福祉協議会 新任者研修 演習担当	平成11年5月17日	「対人援助の基礎」 福祉従事者が知っておくべき対人援助技術をロールプレイ、ワークシートを用いて演習。
北海道社会福祉協議会 介護職員専門研修 演習担当	平成11年6月21日	「コミュニケーションの技法を学ぶ」 介護職員の実務に役立つコミュニケーション技法の基礎的な演習をワークシートやロールプレイを導入して実施。
日本精神保健福祉士協会北海道支部 春期研修会 演習担当	平成12年4月22日	「精神保健福祉法改正と権利擁護」 法改正による成年後見制度との関係についてグループワークを用いて理解を含める演習を行った。
日本精神保健福祉士協会北海道支部 新人研修会 演習担当	平成13年6月24日	「対象者の理解、事例を使ったグループワーク」 実務経験3年未満の精神保健福祉士を対象に架空事例を用いてロールプレイを行い、グループ討論の形でクライアントへの理解を深める演習を行った。
福祉ネットおびひろ 研修会 講義・演習	平成13年7月14日~15日	講義「対人援助技術の基本」 演習「デモンストレーションを通して」 帯広市内の福祉実務者を対象に基本的なコミュニケーション技術についてワークシートとロールプレイを用いた講義、演習を行った。
北海道医療大学生涯学習事業 PSWリフレッシュスクール 講義	平成13年7月21日	「ケースマネジメントの概論II:ビレッジISAにおける実践」 大学公開講座(専門職向)の一部。北米のケースマネジメントモデルを講義。
新潟県精神障害者社会復帰施設協会 研修会 グループワーク助言	平成14年11月22日	主に社会復帰指導員を中心に障害者の理解と関わりに関する総合的な助言を行った。

日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部研修会 講義	平成 15 年 3 月 2 日	「ナラティブは実践の何を変えたのか：ポストモダンソーシャルワークの潮流」 ナラティブモデルを中心に新しいソーシャルワーク理論について講義した。
新潟県糸魚川保健所 精神障害者ホームヘルパーフォローアップ研修 講義	平成 16 年 6 月 1 日	「地域生活支援とホームヘルプ」 ホームヘルパーを対象に精神障害者の理解と関わり方について講義。
新潟県精神障害者社会復帰施設協会 研修会 グループワーク担当	平成 17 年 7 月 5 日	「利用者との関わり場面を通して」 精神障害者社会復帰施設職員を対象に障害者との関わり場面をロールプレイも用いてグループワークを展開した。
新潟県 精神保健福祉業務者新任者 研修会 講義	平成 17 年 10 月 14 日	「精神障害者の地域生活を支援する」 新潟県内の精神保健福祉業務に携わって 3 年未満の職員を対象に精神障害者の地域生活支援のポイントを講義。
新潟県 セルフヘルプグループ支援者 研修会 事例提供	平成 17 年 10 月 29 日	「当事者との協働によるグループ作り：回復者交流会ウイングの活動」 支援中のセルフヘルプグループの実際例を報告。
新潟県 精神保健福祉業務者新任者 研修会 講義	平成 18 年 5 月 29 日	「精神障害とリハビリテーション」 新潟県内の精神保健福祉業務に携わって 3 年未満の職員を対象に ICF の説明と精神障害者のリハビリテーションに関して講義。
新潟県精神障害者家族会連合会 作 業所研修会 講義・演習	平成 18 年 7 月 24 日 7 月 27 日 8 月 7 日	「自立支援法における作業所の移行について」 小規模作業所職員と市町村職員を対象に自立支援法と作業所のあり方について、3 回に渡り新潟県内 3 地域にて講義を行った。
日本精神保健福祉士協会新潟県支部 新任者研修	平成 18 年 10 月 27 日	「精神保健福祉士の専門性」 実務経験 3 年程度までの初任者を対象に精神保健福祉士の専門性について、ソーシャルワーカーの定義、倫理綱領、援助技術の特殊性の 3 つの面から解説した。
<現場従事者に対する教育活動：大学 教員として>		
仙台市太白区役所障害高齢課 職場研 修事例検討講師	平成 20 年度	太白区障害高齢課職員、区内施設職員との精神保健福祉関連の事例検討スーパーバイザー
新潟県精神保健福祉士協会・上越ス ーパービジョン研修会 実践報告	平成 20 年 8 月 23 日	新潟県上越地域の精神保健福祉士を対象にスーパービジョンの方法として「多機関共同によるスーパービジョンシステムの実践について」の報告を行った。
ACT 全国ネットワーク全国研修会	平成 22 年 1 月 23 日、24 日	精神障害者の包括的地域生活支援(ACT)を実施する機関の団体である ACT 全国ネットワークの研修会においてシンポジストとして「ACT と脱施設化」について発表。
宮城県相談支援従事者現任研修	平成 22 年 3 月	宮城県社会福祉協議会主催による県内の相談支援従事者を対象とした研修会にて障害者ケアマネジメントに関する講義を行った。
新潟県精神保健福祉士協会地区別研 修 ライブスーパービジョン担当	平成 23 年 2 月 5 日	新潟県上越地域の精神保健福祉士を対象にしたスーパービジョン研修において、スーパービジョンの実際を示すためのライブスーパービジョンを実施。スーパーバイザー役を担った。
北海道精神保健福祉士協会専門研修 II 講師	平成 24 年 2 月 11 日	北海道精神保健福祉士協会主催のスーパービジョン研修会において、「スーパービジョンの基礎理解」の内容で道内の精神保健福祉士を対象に講義を行った。
特定非営利法人 Switch 職員研修ス ーパーバイザー	平成 24 年 2 月 25 日	仙台市にある精神障害者の就労支援施設 Switch! 仙台の職員に対するスーパーバイザーを担当。事例検討と助言を行った。

新潟県上越地域精神保健福祉士スーパービジョン研修会 講師	平成 24 年 9 月 15 日	新潟県上越地域の精神保健福祉士を対象にしたスーパービジョン研修において、「スーパービジョン概論」の講義とライブスーパービジョンにおける助言者を担当した。
社会福祉法人創志会職員研修	平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 平成 27 年度 平成 28 年度 平成 29 年度 平成 30 年度	茨城県の精神障害者の障害福祉サービス事業所を運営する社会福祉法人創志会における新人職員に対する教育研修の企画し、講義・演習を行った。
茨城県精神保健福祉士協会スキルアップ研修・基幹研修 講師	平成 24 年 12 月 1 日 平成 26 年 12 月 1 日 平成 29 年 10 月 28 日 平成 30 年 11 月 4 日	茨城県の精神保健福祉士協会が主催するスキルアップ研修および基幹研修にて、「日本精神保健福祉士協会の役割と課題」の講義を行った。
八千代市社会福祉協議会職員研修会 講師	平成 27 年 3 月 14 日	八千代市社会福祉協議会において、職員研修として「日常的なコミュニケーションの中での面接技術」と題して講義ならびに演習形式による研修会講師を務めた。
社会福祉法人上越つくしの里医療福祉協会 職員研修	平成 27 年 8 月 25 日	新潟県上越市・糸魚川市の社会福祉法人にて、ストレングスマデルに基づいた支援について講義と演習を行った。
八千代市障害者虐待防止地域連絡会・八千代市高齢者虐待防止地域連絡会	平成 28 年 1 月 21 日	「障害者差別解消法について」八千代市内の障害者、高齢者の虐待防止に関わる委員を対象として解説を行った。
ソーシャルファームジャパンサミット in つくば	平成 28 年 10 月 9 日	全国のソーシャルファーム実践者の大会にて、実践報告のシンポジウム司会を担当した。
全国ピアスタッフ協会第 5 回ピアスタッフの集い	平成 28 年 11 月 12 日	精神障害のピアスタッフならびに当事者、援助者、研究者の集まりにおいて分科会で「ピアスタッフの立ち位置」に関する発表を行なった。
全国ピアスタッフ協会第 6 回ピアスタッフの集い	平成 29 年 12 月 10 日	精神障害のピアスタッフならびに当事者、援助者、研究者の集まりにおいて分科会で「ピアスタッフのスーパービジョン」に関する発表を行なった。
平成 30 年度新潟市精神障がい者地域移行・地域定着支援研修会	平成 30 年 12 月 21 日	「ピアのチカラ：ピアサポーターの活用で進める地域移行支援」と題して新潟市近郊の精神保健福祉に関わる専門職を対象として地域生活支援におけるピアサポートの理解に関する講義を行った。
<その他：市民等への講演等> 釧路保健所アルコール依存症学習会 講義・グループワーク	平成 10 年 3 月 12 日	アルコール依存症の理解と家族の対応」アルコール依存症者の家族を対象に疾病の理解と家族の対応についてグループワークと講義を行った。
札幌市精神保健ボランティア講座：やさしい精神保健講座 講義	平成 12 年 9 月 28 日	「障害を抱えて生活するという事」精神保健福祉ボランティアに興味がある一般市民を対象に精神障害について生活面を中心に講義した。
新潟県糸魚川保健所 精神保健福祉ボランティア養成講座 講義	平成 15 年 5 月 28 日	「精神保健福祉ボランティアに期待すること」精神保健福祉ボランティアに関心を持つ市民向けに精神障害者との関わり方を主とした講義を行った。
新潟県上越保健所 新井市（現妙高市）精神障害者家族交流会 講義	平成 15 年 11 月 20 日	「家族のチカラ：保護者からパートナーへ」精神障害者の家族を対象に新潟地域の福祉の現状とこれからの家族支援について講義した。
新潟県糸魚川保健所 精神保健福祉ボランティア養成講座 講義	平成 16 年 7 月 30 日	「精神障害とボランティア」精神保健福祉ボランティアに関心を持つ市民向けに精神障害者の理解とボランティアを行う

新潟県糸魚川保健所 精神保健福祉ボランティア養成講座 グループワーク助言	平成17年11月24日	際のポイントを講義した。
新潟県糸魚川保健所 デイケア SSTプログラム担当	平成18年1月26日	一般市民向けのボランティア講座でグループワークの運営と助言を担当。
東京成徳大学八千代キャンパス公開講座	平成22年9月25日	精神障害者を対象にした保健所デイケアにおいて SST プログラムを実施。
	平成30年11月17日	「こころの病と向き合う：ソーシャルワーカーの立場から」と題した市民向け公開講座を行った。福祉の立場から見た精神障害の理解と支援について解りやすく伝える他、大学で教えている事柄について解説した。
八千代くひきこもり>と共に生きる会主催 「生活のしづらさを考えるシンポジウム」 コメンテーター	平成30年2月25日	「コミュニケーションの技法：相談援助技術を使ったコミュニケーション」と題した市民向け公開講座を行なった。ソーシャルワークの専門技術をわかりやすく解説し、一般の生活でも使えるコミュニケーションの技法を伝えた。
社会福祉法人 八千代市社会福祉協議会主催 「市民後見人養成講座」	平成30年10月29日	八千代市内でひきこもりとその家族の支援を行う団体による市民向けのシンポジウムに参加。ひきこもりについての解説とシンポジウムのコメンテーターを担当した。
八千代市社会福祉協議会が主催する「市民後見人養成講座」において、対人援助の基盤と面接技術の基礎を演習を交えて講義した。		
5 その他		
精神保健福祉士国家試験試験委員	平成20年度～平成25年度	社会福祉振興・試験センターからの委嘱により、精神保健福祉士国家試験試験委員として作問を担当した。
日本学術振興会科学研究費補助金若手研究（スタートアップ） 課題番号：20830076	平成20年4月～平成22年3月	課題名：精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践における対等性の研究 研究代表者：江間 由紀夫
第7回日本精神保健福祉学会 ポスター発表	平成20年6月14日	「多機関協働によるスーパービジョンシステムの実践について」スーパーバイザーの確保が難しい地域において、多機関の精神保健福祉士が協力して行うスーパービジョンシステムの実践について報告した。
2017年度日本精神保健福祉学会分科会座長	平成29年9月17日	第6回日本精神保健福祉学会において第3分科会の座長を務めた。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	平成元年11月6日 平成11年6月10日	社会福祉士（第00171号）登録 精神保健福祉士（第3585号）登録
2. 特許		なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
東京都町田市保健所 酒害相談員	平成3年4月～平成5年3月	非常勤職員としてアルコール依存症者に関する相談、家族教室担当
日本精神医学ソーシャルワーカー協会（現日本精神保健福祉士協会）阪神大震災ボランティア派遣事業に参加	平成7年3月	兵庫県立光風病院での精神科夜間診療窓口業務を担当
日本精神医学ソーシャルワーカー協会北海道支部（現日本精神保健福祉士協会北海道支部）事務局担当理事	平成7年4月～平成12年3月	事務局運営、ならびに研修企画等を担当

精神障害者共同住居共同住居エルム運営委員	平成8年9月～平成11年3月	精神障害者が一般アパートを利用して地域生活を行うための住居作りとその運営、ならびに訪問による個別ケアを実施
精神障害者小規模作業所 ひまわり共同作業所 運営委員	平成9年4月～平成13年3月	平成13年3月まで：作業所運営に関する委員会委員として参加
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部研修会 事務局	平成10年2月	札幌にて開催された講演会、ワークショップの企画運営および事務局担当
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会第13回全国研究大会 事務局	平成10年8月	札幌にて開催された全国研究大会の企画運営および事務局を担当
上越地区地域生活支援センター連絡会	平成15年4月～平成19年3月	上越地域での一般市民向けフォーラムやボランティア講座、当事者グループの支援などについてのイベント企画、運営
4. その他		
日本精神保健福祉士協会機関誌編集委員	平成22年6月 平成26年6月	日本精神保健福祉士協会が発行する機関誌・学術雑誌の編集委員として企画、編集に携わる
鎌ヶ谷市障がい者計画 策定委員会 副委員長	平成22年9月	鎌ヶ谷市の障がい者計画策定委員会副会長として議事の運営及び計画の策定に携わる。(平成23年4月まで)
日本精神保健福祉士養成校協会 事務局員	平成23年4月	日本精神保健福祉士養成校協会の事務局員として協会の運営に関する会議等に携わる(平成29年3月まで)
鎌ヶ谷市自立支援協議会 会長、委員	平成24年1月	鎌ヶ谷市の障害者自立支援協議会の会長として議事運営および企画等に携わる(会長職は平成26年4月まで、以後現在まで委員)
八千代市自立支援協議会 暮らし部会委員	平成24年1月	八千代市の障害者自立支援協議会の委員として「暮らし部会」に携わり市民の障がいに対する啓蒙活動等に携わる(平成25年度まで)
八千代市自立支援協議会 つなげる部会委員	平成26年4月	八千代市の障害者自立支援協議会の委員として「つなげる部会」に携わり障害者計画に関する活動等に携わる(現在に至る)
日本精神保健福祉士協会 査読委員	平成25年4月	日本精神保健福祉士協会の学術雑誌「精神保健福祉」における論文の査読委員として査読に携わる(現在に至る)
八千代市障害者虐待防止地域連絡会 委員		八千代市の障害者虐待防止に関する連絡会に委員として携わる(現在に至る)

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 精神保健福祉実践ハンドブック：ソーシャルワーク過程の場面展開に見る“精神保健福祉士”の実践活動と理論 (前掲)	共著	平成 14 年 2 月	日総研	精神保健福祉士が業務を行う際に必要な理論および援助技術をソーシャルワーク過程の点から解説した書 B5 版 全 246 ページ 編者：住友雄資、長崎和則、金子努、辻井誠人 共著者：住友雄資、長崎和則、金子努、辻井誠人、斉藤晋治、伊藤秀幸、栄セツコ、高畑隆、渋谷文香、江間由紀夫、斉藤征人、浅若愛 本人担当部分：第 8 章エバリュエーション (事後評価) (p. 165-p. 180)
2 精神保健福祉士養成講座 ⑤ 精神保健福祉援助技術総論 (前掲)	共著	平成 15 年 2 月	中央法規	精神保健福祉士の援助実践の評価について、事例を用いて解説した。チームによる評価、クライアントとの協働による評価、評価の時期や視点の置き方など実践現場を想定した解説を行った。 精神保健福祉士養成テキストの一部として、精神保健福祉士が理解しておくべき援助技術を総体的に解説した書。 B5 版 全 296 ページ 編者：田中英樹、寺谷隆子、谷中輝雄 共著者：谷中輝雄、平直子、木村真理子、新保祐元、江間由紀夫、前田ケイ、山崎美貴子、泉洋一、寺谷隆子、田中英樹、住友雄資、橋本みきえ、丸山裕子、八木原律子 本人担当部分：第 1 章第 3 節 1 ソーシャルワークと精神保健福祉援助技術 (p. 37-p. 41)
3 改訂精神保健福祉士養成講座⑤ 精神保健福祉援助技術総論 (前掲)	共著	平成 19 年 1 月	中央法規	精神保健福祉士養成テキストの改訂版。目次構成の変更により近年の制度・技術の変更点に対応。 B5 版 全 292 ページ 編者：住友雄資、田中英樹、谷中輝雄 共著者：住友雄資、谷中輝雄、平直子、木村真理子、山崎美貴子、岩崎香、泉洋

<p>4 新・精神保健福祉士養成講座 7 精神保健福祉援助演習 (前掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 21 年 2 月</p>	<p>中央法規</p>	<p>一、田中英樹、福島喜代子、橋本みきえ、丸山裕子、原久美子、村上清、八木原律子、江間由紀夫、寺谷隆子、鈴木ゆかり、長崎和則、半田芳吉、新保祐玄 本人担当部分：第 5 章第 1 節「精神保健福祉援助活動の課題と動向：ソーシャルワークと精神保健福祉援助技術」(p. 238-p. 243) 現代の精神保健福祉援助実践が直面している課題に沿ってソーシャルワーク理論とその導入について解説した。</p> <p>精神保健福祉士養成テキストの改訂版。別冊の教員用指導ガイドも執筆。 B5 版 全 286 ページ 編者：青木清久、岩崎香、住友雄資 共著者：青木清久、伊東秀幸、岩崎香、江間由紀夫、金子努、藏野ともみ、栄セツコ、坂本智代枝、佐藤純、佐藤光正、助川征雄、鈴木孝典、住友雄資、高木健志、田中英樹、辻井誠人、長坂和則、長崎和則、中村和彦、名城健二、橋本美枝子、福島喜代子、藤原正子、益満孝一、松本すみ子、宮崎まさ江、向谷地生良、山岡由美、行實志都子、横山なおみ 本人担当部分：第 4 章「事例演習：事例 12 低所得者への支援」(p. 233-p. 237) 低所得問題を抱える精神障害者への支援に関して、事例をあげて演習プログラムを作成。低所得問題の具体的な理解と対処方法、課題について述べた。</p>
<p>5 新・精神保健福祉士養成講座 8 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) (前掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 2 月</p>	<p>中央法規</p>	<p>精神保健福祉士養成カリキュラム改訂に基づくテキストの全面改訂版。 B5 版 全 370 ページ 編者：栄セツコ、住友雄資、松本すみ子、森田久美子 共著者：青木聖久、伊藤千尋、伊東秀幸、稲垣佳代、岩間文雄、江間由紀夫、大塚ゆかり、大場義貴、岡知史、尾口昌康、金田知子、金子努、齊藤敏靖、栄セツコ、阪田憲二郎、坂本智代枝、佐藤純、佐藤光正、新宮直行、鈴木孝典、住友雄資、高木健志、知名孝、中村卓治、名城健二、西友子、西村明子、橋本美枝子、橋本みきえ、菱川愛、福島喜代子、藤林正雄、藤原正子、松宮透高、松本すみこ、壬生</p>

<p>6 新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習（前掲）</p>	<p>編集 共著</p>	<p>平成24年2月</p>	<p>中央法規</p>	<p>明日香、宮崎まさ江、森田久美子、柳政勝、山岡由美、山野尚美、山本耕平、山本由紀、行實志都子、横山なおみ、吉田みゆき 本人担当部分：第3章第4節3「バーンアウトの防止」（pp.136-139）、第5章事例9「チームアプローチ」（pp.220-224）、第7章事例33「低所得者への支援」（pp.343-347） バーンアウトの防止のための演習プログラム、チームアプローチの事例を使った演習、低所得者支援のための事例を使った演習を作成し、新カリキュラムで求められる援助技術について解説した。</p> <p>精神保健福祉士養成カリキュラム改訂に基づくテキストの全面改訂版。 B5版 全235ページ 編者：江間由紀夫、住友雄資、森田久美子、吉澤豊 共著者：稲垣佳代、岩本操、上野容子、江間由紀夫、大塚直子、大塚ゆかり、岡田洋一、尾口昌康、坂本明子、住友雄資、妹尾和美、立石宏昭、辻井誠人、永本隆、西谷清美、林美希、稗田里香、藤原正子、益満孝一、松岡克尚、眞野典子、森田久美子、森谷就慶、安本紀子、山野尚美、行實志都子、吉澤豊 本人担当部分：第2章第4節1「実習先とその利用者への援助方法の理解：精神科医療機関」（pp.45-48）同4「その他の実習施設」（pp.54-58）、第5章view「実習施設の実際」（p.131）、第1節「実習施設の機能の役割変化」（pp.132-138）、第2節1「精神科医療機関：精神科病院」（pp.139-145） 編集委員として実習施設の実際に関する章などを編集。実習先と援助方法に関する説明、実習機関の機能と役割および精神科病院での実習プログラムの部分を執筆。実習で求められる知識や技術、実習計画の内容などを解説した。</p>
<p>7 新・精神保健福祉士養成講座9（改訂版） 精神保健福祉援助実習指導・実習（前掲）</p>	<p>編集 共著</p>	<p>平成26年12月</p>	<p>中央法規</p>	<p>精神保健福祉士養成テキストの改訂第2版。 B5版 全244ページ 編者：岩本操、江間由紀夫、中村卓治、吉澤豊</p>

<p>8 新・精神保健福祉士養成講座8 (第2版) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) (前掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成28年2月</p>	<p>中央法規</p>	<p>共著者：稲垣佳代、岩本操、江間由紀夫、大塚直子、大塚ゆかり、立石宏昭、辻井誠人、手塚英典、中村卓治、西谷清美、藤原正子、益満孝一、松岡克尚、眞野典子、森田久美子、森谷就慶、安本紀子、山野尚美、吉澤豊 本人担当部分：第2章第1節「精神保健医療福祉の現場」(pp. 24-29) 第6章第1節「配属実習の流れ」(pp. 154-159) 編集委員として実習施設の実際に関する章などを編集。精神保健医療福祉の沿革や現状、配属実習の実際と実習で求められる知識や技術、実習計画の内容などを解説した。</p> <p>精神保健福祉士テキストの改訂第2版。 B5版 全397ページ 編者：栄セツコ、松本すみ子、森田久美子、行實志都子 共著者：青木聖久、伊藤千尋、伊東秀幸、稲垣佳代、岩間文雄、江間由紀夫、大塚ゆかり、大場義貴、岡知史、尾口昌康、金田知子、北本明日香、斉藤敏靖、栄セツコ、阪田憲二郎、坂本智代枝、佐藤純、佐藤光正、新宮直行、鈴木孝典、高木健志、知名孝、中村卓治、名城健二、西友子、西村明子、橋本美枝子、橋本みきえ、菱川愛、福島喜代子、藤林正雄、藤原正子、松宮透高、松本すみこ、宮崎まさ江、森田久美子、柳政勝、山岡由美、山野尚美、山本由紀、行實志都子、横山なおみ、吉田みゆき 本人担当部分：第2章第7節1「バーンアウトの防止」(pp. 73-77)、第8章事例7「チームアプローチ」(pp. 240-244)、バーンアウトの防止のための演習プログラム、チームアプローチの事例を使った演習を作成し、精神保健福祉士に求められる援助技術について解説した。</p>
<p>9 第6版 精神保健福祉士養成セミナー4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開I</p>	<p>共著</p>	<p>平成29年1月</p>	<p>へるす出版</p>	<p>精神保健福祉士養成テキストの改訂版。 B5版 全324ページ。 編者：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集代表：荒田寛、佐々木敏明、助川征雄、田村綾子 共著者：江間由紀夫、木村朋子、森谷就慶、伊藤千尋、佐々木敏明、助川征雄、</p>

<p>10 第2版 イラストでみる社会福祉用語事典</p>	<p>共著</p>	<p>平成29年6月</p>	<p>テコム</p>	<p>木村真理子、小沼聖治、柏木昭、吉川公章、荒田寛、田村綾子、岩尾貴、黒木保博、今井博康、岩上洋一、廣江仁、大岡由佳 本人担当部分：第1章1節「障害者福祉の理念と精神障害」(pp. 1-19) 障害者福祉の理念を軸に精神障害者の福祉の捉え方、精神保健福祉士の役割と実践について開設した。</p> <p>社会福祉に関する用語事典。全523ページ。 福祉教育カレッジ編、飯塚慶子、石田健太郎、伊藤健次他 本人担当部分：(人物) ブトゥリム、バンデューラ、リンデマン(理論等) ジェネラリスト・ソーシャルワーク、プランニング、フェミニズム、フェミニスト・ソーシャルワーク、特例理論、計8項目を執筆。</p>
<p>(学術論文) 1 精神科領域におけるボランティア活動の現状と課題</p>	<p>共著</p>	<p>平成8年3月</p>	<p>北海道社会福祉協議会 北海道ノーマラゼーション研究センター 「北海道ノーマライゼーション研究」No. 8</p>	<p>北海道内における精神保健福祉ボランティアの導入状況と活動内容のアンケート調査と聞き取り調査を行った。結果、回答を得た施設・機関の7割以上がボランティア導入に肯定的だが、ボランティアが実際に安定して活動できる受け皿が少なく、その開拓と養成講座修了者へのサポートシステムの確立が必要であることが明らかになった。(pp. 1-13) 本人担当部分：アンケート調査集計および文章作成(共同研究につき抽出不能) 共著者：大澤晶人、今井博康、江間由紀夫、小銭寿子、笹原美祐紀、佐藤志津、佐々木敏明</p>
<p>2 精神保健ボランティアの精神障害者観に関する調査研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成10年3月</p>	<p>北海道社会福祉協議会 北海道ノーマラゼーション研究センター 「北海道ノーマライゼーション研究」No. 10</p>	<p>北海道内で開催された精神保健福祉ボランティア養成講座の受講者および修了者を対象にその精神障害者観を問うアンケート調査を行った。結果、養成講座受講者は、精神障害者を身近に受けとめているものが多く、肯定的なイメージを持っており、地域住民と精神障害者との間を仲介する役割を果たす位置にあると考えられた。(pp. 35-46) 本人担当部分：アンケート調査のデータ解析ならびに文章作成(共同研究のため抽出不可)</p>

<p>3. Village ISA の理念と活動から学ぶサービス統合システム：当事者主体のケースマネジメントを中心に</p>	<p>単著</p>	<p>平成13年9月</p>	<p>ファシリティーズネット Vol4. No. 3 全国精神障害者社会復帰施設協会</p>	<p>共著者：佐々木敏明、伊東嘉弘、齋藤健三、小栗静雄、今井博康、江間由紀夫、佐藤志津</p> <p>アメリカの精神保健福祉施策の流れとケースマネジメントの展開、効果的な実践事例としての Village ISA の活動について、現地でのセミナー参加の経験も含めて報告した。また、日本における精神障害者へのケースマネジメント導入に際して統合的な地域生活支援サービスの重要性を述べた。(pp. 27 -40)</p>
<p>4 精神障害者に対するケアマネジメントにおける利用者主体アプローチの実現に関する考察：精神障害者ケアガイドラインの補足とその実践について(修士論文)</p>	<p>単著</p>	<p>平成14年3月</p>	<p>北海道医療大学</p>	<p>精神障害者の地域生活支援における利用者主体のサービス提供に関して、小規模作業所での参与観察、聞き取り調査を実施、アメリカにおけるケースマネジメントの成立過程とモデルの比較を文献から検討した。結果、利用者と援助者との協働的関係の重要性と基本的なケアマネジメントに加えた個別性の高いサービスの提供の必要性について述べた。</p> <p>400 字詰め原稿用紙換算 249 ページ 図表 11 点</p>
<p>5 精神障害者の社会復帰に向けた体制整備のあり方に関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成14年3月</p>	<p>厚生科学研究 障害保健福祉総合研究 事業平成12年度～13年 度報告書</p>	<p>精神障害者地域生活支援センターを中心とした社会復帰のための体制整備についての研究のうち、分担研究「精神障害者社会復帰施設から地域福祉への展開とこれからの展望に関する研究」(分担研究者：谷中輝雄)に研究協力者として参加。</p> <p>本人担当部分：「十勝・帯広の取り組み」 実地見学、聞き取り調査、文章作成(pp. 38 -44)</p> <p>主任研究者：北川定謙 分担研究者：竹島正、谷中輝雄 研究協力者：立森久照、三宅由子、住友雄資、江間由紀夫、齋藤征人、浅若愛</p>
<p>6 医学モデルからリハビリテーションモデルへ：アメリカの脱施設化にみるコミュニティ・ケア実践とパラダイムシフト</p>	<p>単著</p>	<p>平成17年6月</p>	<p>精神障害とリハビリテーション 第9巻第1号 金剛出版</p>	<p>アメリカにおける精神障害者の脱施設化のプロセスとその問題点を文献から検討。心理社会的リハビリテーションの実践モデルとして Village ISA の活動を取り上げ、障害当事者と援助者とのパートナーシップ構築の重要性を述べた。(pp. 40-45)</p>

7 精神保健福祉士のスーパービジョンシステム構築について-新潟県上越地域における多機関協働の取り組みから-	共著	平成21年3月	東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科紀要	精神保健福祉士に対するスーパービジョンを地域の精神保健福祉士が組織や機関の壁を越えて協働してシステム作りを行った経過とその活動を構成した要素について検討を行った。併せて日本精神保健福祉士協会が行っている認定スーパーバイザー養成の課題とそれを保管するスーパービジョンシステムの可能性について言及した。(pp. 149-159)
8 「生活のしづらさ」再考-生活支援論から学ぶもの	単著	平成25年12月	精神保健福祉第44巻第4号	精神保健福祉士にとって重要なキーワードである「生活のしづらさ」について、その成立から意義を明らかにし、今後の精神保健福祉士が意識すべき事として再検討を行った。(pp. 286-289)
9 「生活支援論」再考-谷中輝雄の遺したもの	単著	平成26年3月	東京成徳大学研究紀要NO. 21	日本におけるソーシャルワーカーによる精神障害者の地域生活支援の草分といえる故谷中輝雄氏の業績と現在においてなお大きな影響を与えている「生活支援論」を再検討し、その全体像と限界および今後の可能性について述べた。(pp. 45-53)
10PSW は自己決定にどう向かい合ってきたか-初期の機関誌に見るPSW と自己決定	単著	平成26年12月	精神保健福祉第45巻第4号	日本精神保健福祉士協会の全身である日本精神医学ソーシャルワーカー協会の初期の機関誌に掲載された論文のレビューを基にした論文。精神保健福祉領域のソーシャルワーカーが自己決定に対してどのように取り組んできたかを振り返り、今後の精神保健福祉士が取り組むべき方向性を示した。(pp. 308-311)
11 ピアスタッフとソーシャルワーカーの関係性に関する一考察	単著	平成28年3月	東京成徳大学研究紀要NO. 23	精神保健福祉領域で広まりつつある障害当事者による支援であるピアサポート、ピアスタッフのあり方について考察を行った。歴史的な経緯と近年の論文や座談会等の記録を基に現状の課題と今後のソーシャルワーカーとの関係性について述べた。(pp. 27-35)
12 公開シンポジウム「ふくしではたらく-福祉専門職にできること」報告	共著	平成29年3月	東京成徳大学研究紀要NO. 24	平成28年7月に行われた公開シンポジウムの報告書。話題提供のまとめ、質疑応答部分の編集を行った。(pp. 13-31)
13 精神保健福祉領域におけるピアスタッフの役割について	単著	平成29年3月	東京成徳大学研究紀要NO. 24	平成27年の論文に続き、精神保健福祉領域におけるピアサポート、ピアスタッフのあり方について、そのモデルの分類

14 社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムにおけるアクティブ・ラーニングの試み	単著	平成30年3月	東京成徳大学研究紀要 NO. 25	や実際の活動、今後の活動の方向性に関する考察を述べた。(pp. 33-43) 教育に含めるべき内容が定められている国家資格指定科目の講義科目において、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業に関する実践報告。「大福帳」を応用した学生からのフィードバックと教員の反応、試験における学習内容をガイドする「持ち込み用紙」の活用など、学生の主体的な学習につながる取り組みの報告と考察を行った。(pp. 73-81)
15 新潟県上越地方における精神保健福祉士のスーパービジョンシステムについて	単著	平成31年3月	東京成徳大学研究紀要 NO. 26	新潟県上越地方で10年以上にわたり継続されてきた独自の精神保健福祉士のスーパービジョンシステムについて平成21年の発表以後の経過とそのシステムを支えてきた背景にあるものを調査。今後のスーパービジョンのあり方についての考察を行った。(pp. 119-129)
(その他) 1 障害年金 Q&A	共著	平成2年 6月	ぜんかれん 1990年6月号 全国精神障害者家族会 連合会	障害年金に関する特集で、事例に答える形で障害当事者や家族に解りやすく障害年金の制度や申請の仕方などを説明した。 本人担当部分：回答の文章作成。(共著のため抽出不可) 共著者：増田浩、池末美穂子、神マチ、平田佳男、山口多希代、森戸久美子、江間由紀夫、佐藤孝子
2 性別を越えた専門職としての期待	単著	平成8年 3月	こころの臨床 à la carte 第15巻第1号星和書店	看護師(現看護師)特集での論文。精神科病院におけるチーム医療の視点から、看護師とソーシャルワーカーとの役割の違いや連携の重要性について述べた。(p. 39-p. 42)
3 精神保健福祉士の仕事	単著	平成13年7月	朱鷺書房	精神保健福祉士を目指す人のための解説書において、実務者によるコラム部分の一つ(これからの精神保健福祉士のあり方)を担当。精神保健福祉士の仕事の実際の流れや重視している視点などを体験を基に解説した。(p. 213-p. 216) 編者：住友雄資
4 新版 精神保健福祉士の仕事	単著	平成15年10月	朱鷺書房	精神保健福祉士を目指す人のための解説書。コラム部分の担当。一部改訂のみ。(p. 212 -p. 215) 編者：住友雄資

5 書評「精神障害法」		平成23年12月	精神保健福祉 Vol. 42 No. 4 日本精神保健福祉士協会	池原毅和 著「精神障害法」(三省堂)の書評。(p154)
6 書評「精神医学を再考する-疾患カテゴリーから個人的経験へ」		平成24年6月	精神保健福祉 Vol. 43 No. 2 日本精神保健福祉士協会	クラインマン 著 江口重幸他訳「精神医学を再考する-疾患カテゴリーから個人的経験へ」(みすず書房)の書評。(p154)
7 書評「検証日本の精神科社会的入院と家族-精神科長期入院者とその家族について歴史的考察とその実態-精神障害者福祉への政策提言」		平成26年6月	精神保健福祉 Vol. 45 No. 2 日本精神保健福祉士協会	滝沢武久 著「検証日本の精神科社会的入院と家族-精神科長期入院者とその家族について歴史的考察とその実態-精神障害者福祉への政策提言」(筒井書房)の書評。